

LEXUS TEAM ZENT CERUMO

2018 AUTOBACS SUPER GT Report

FUJI GT 500mile RACE

第5戦 富士スピードウェイ

ZENT CERUMO LC500

#38 立川祐路／石浦宏明

◆8月4日（日） RACE

決勝結果 リタイア

8月3日の公式予選では、大きなウ
エイトハンデのなかでもチームの頑張
りが功を奏し予選4番手につけること
ができた LEXUS TEAM ZENT
CERUMO。しかし立川祐路、石浦宏明
のドライバーふたりはもちろん、チー
ムの全員が口を揃えていたのが、決勝



レースでいい結果を残さなければこの結果は無駄になってしまうということだ。
チームはしっかりと長丁場のレースに向けた準備を整え、決勝日を迎えた。

迎えた8月5日は、朝から青空が広がり、気温も上昇。風があるため涼しさ
を感じるものの、8月らしい気温のなかでのレースとなった。直前のウォームア
ップ走行では赤旗中断もあったが、ZENT CERUMO LC500は1分32秒079と
いうベストタイムをマークし、6番手で終えた。レースもしっかりと戦える手
ごたえはありそうだ。

今回は長丁場ということもあり、4ピット5スティントのレースを戦うこと
になるが、スタートドライバーを務めたのは立川。まずはオープニングラップ
に順位をひとつ上げ3番手につける走りを見せるが、今回 ZENT CERUMO
LC500は燃料流量リストラクターが絞られていることでストレートスピードで
は他車が有利だったことや、立川のスタート時に装着していたタイヤが厳しか

ZENT

LEXUS

TRD

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

WAKOS

asics

HERSHEL

Jms

T-SELECT

TAMACHI

CABANA

トヨタ東自大

EBS

SHOWA
BRAKE FLUID

MERCHAN WEAR

LEXUS TEAM ZENT CERUMO

ったこともあり、3周目、後方についた#19 LC500、#64 NSX-GTの接近を許してしまうと、4周目のメインストレートでは5番手に順位を落としてしまう。



とはいえ、そこからの立川は粘りの走りをみせ、順位を落とすことなく5番手をキープ。25周を終えて前がピットインしたこともありひとつポジションを上げ、31周を終えてピットへ。立川から石浦に交代すると4番手でコースに復帰した。立川のタイヤとは異なる種類のものを履いていた石浦はフィーリングも良く、42周目には前を走っていた#16 NSX-GTをオーバーテイク。ただその2周後には、ハンドが軽い#3 GT-Rにかわされてしまうなど、表彰台圏内を争う戦いを展開していった。

その後も石浦のステイントでは後半さらに好調なフィーリングを得て2番手の#23 GT-Rに迫ると、69周を終えてピットインし、ふたたび立川に交代する。ここまでタイヤ選択も良く、ピットインのタイミングをもってしても、表彰台を獲得することは十分に可能だ。それどころか、優勝争いも見えはじめていた。いざ後半戦へ向け、ふたたび立川はZENT CERUMO LC500にムチをいれた。

しかしそのアウトラップ。目を疑うようなシーンがモニターに映し出された。なんとトヨペット100Rコーナーの立ち上がりで、ZENT CERUMO LC500がタイヤバリアにクラッシュしていたのだ。立川ではあり得ないクラッシュだったが、リプレイ映像には、右フロントタイヤからナットが飛んでいるシーンが映し出された。



ZENT CERUMO LC500はフロントを大きく破損しており、レース続行は不可能だったのは一目瞭然だった。不幸中の幸いは立川に怪我がなかったことだろうか。現段階ではナットが外れたことの原因は不明だが、シーズンの趨勢を左右する大事な一戦で、ドライバーの頑張りが報われぬ最悪の結果となってしま

ZENT

LEXUS

TRD

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

WAKOS

asics

HERSEL

Jms

T-SELECT

TAMACHI

CABANA

トヨタ東自大

EBS

SHOWA
BRAKE FLUID

MV
MECHANIC WEAR

LEXUS TEAM ZENT CERUMO

った。「悔しい」では済まされないレースに、LEXUS TEAM ZENT CERUMOのメンバーは沈痛な表情となったが、悔やんでばかりもいられない。チームは「これから3連勝するしかない」と終盤戦でのリベンジを誓った。

ドライバー／石浦宏明

「スタートは立川選手が担当しましたが、ライバルのペースをみて、僕のステイントからタイヤの種類を変えたところペースも良く、ピット戦略もいいものだったので、後方にリードを築き自分のステイントを終えることができました。作戦も順調で、優勝争いもできる手ごたえがあったのですが、その矢先にああいうアクシデントが起きてしまいました。500マイルレースなので、すべてミスなくいかなければ結果はついてこないと思っていたので、ショックでした。今回はハンデが苦しいなかでトップ争いに加わることができたのは、今季のLEXUS TEAM ZENT CERUMOの体制の強さを出せていたので、悔しい気持ちも大きいです。アクシデントの原因はまだはっきり分かりませんが、今年新体制になり、ピット作業の練習を頑張ってくれていたのも知っているのも知っているので、誰かの責任ではなく、頑張っていたなかでのことなので、これもレースだと思っています。とはいえ、結果を残せなかったのはチーム全体の問題だと思います。昨年アクシデントに見舞われてしまったこのレースで、同様にアクシデントがあったのは最大の反省点です。まだランキングでは4位なので、得点差は大きいですが、あとは全部勝つつもりで気持ちを切り替えています。実力はもっていると思うので、結果に出していきたいですね」

村田淳一監督

「クルマ、そしてレース途中までのタイヤ選択が功を奏し、トップ2に接近するところまではいいレースコントロールができていました。ペースも良くレースを折り返そうとしていたところで、あんなアクシデントが起きてしまいました。まだ原因は特定できていませんが、今後しっかり検証、対策をやっていかなければなりません。チームとしてはドライバー、そしてスポンサーの皆さんに申し訳ないことをしてしまいました。今後に向けてしっかりとチェックしていきたいと思います」



LEXUS TEAM ZENT CERUMO



LEXUS TEAM ZENT CERUMO

決勝結果表

Rank	Car No.	CarName	Laps	BestLapTime
1	6	WAKO'S 4CR LC500	175	1'31.677
2	1	RAYBRIG NSX-GT	175	1'31.672
3	23	MOTUL AUTECH GT-R	175	1'30.984
4	37	KeePer TOM'S LC500	175	1'31.873
5	12	カルソニック IMPUL GT-R	175	1'31.944
6	16	MOTUL MUGEN NSX-GT	175	1'32.005
7	8	ARTA NSX-GT	175	1'32.196
8	17	KEIHIN NSX-GT	174	1'31.121
9	19	WedsSport ADVAN LC500	174	1'31.580
10	64	Modulo Epson NSX-GT	172	1'31.352
11	3	CRAFTSPORTS MOTUL GT-R	138	1'30.852
	24	REALIZE CORPORATION ADVAN GT-R	104	1'31.946
	36	au TOM'S LC500	102	1'31.763
	39	DENSO KOBELCO SARD LC500	82	1'32.193
	38	ZENT CERUMO LC500	69	1'32.199

